

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2373001128		
法人名	医療法人 豊成会		
事業所名	どんぐりの家		
所在地	愛知県豊田市青木町5-88		
自己評価作成日	平成27年10月12日	評価結果市町村受理日	平成28年 3月 4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=2373001128-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市中区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成27年10月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

目の前には公園があり、リビング室内からは自然の動くパノラマをいつでも眺められ、散歩もできとても良い環境です。そんな中で地域の方々との関係も深まっています。また、理念である人格尊重を大切に一人一人の方の思いを大切にした支援ができています。ホームだとスタッフ全員が思える事業所です。さらに、昨年からは同法人Drによる訪問診療を取り入れたり看護師を採用するなど、健康面でもより安心できる事業所になり、その人の穏やかな日々を送ることに一役をかってきています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

設立から12年間、ホーム運営に尽力された管理者が退職されるにつき、その言葉を紹介したい。スタート時は手探りで、『利用者が周りの方々から馬鹿にされない様にお守りして行こう』との気持ちで携わって来た。当初、地域の見方は『よそ者が来た』であり、『公園のフェンスに洗濯物を干すな』と言っては、やたらと地域の幹部が見に来たり、運営推進会議への誘いにも、『地域にメリットなし』、『自分たちでやったら』と非協力的な発言が多かった。その様な中でも信念の『人との絆を大切にしていこう』を貫き、地域との繋がりも深くなって支援の輪が1年毎に増してきた。運営推進会議で初代の区長から、『あの頃は色々難題を言ったね。老人会は認知症予備軍が多いので勉強したい』との有難い言葉を貰った。今では、地域との取り組みは運営推進会議抜きでは成り立たない。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input checked="" type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input checked="" type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	人格尊重という理念のもと、事業所職員が1つにまとまり、その方らしさを大切に、利用者さんとそのご家族のことを第一に考えて行動している。また、地域との関係も良好で相互協力関係を築くことができている	職員2人から、『人生の先輩として敬う気持ちで対応している』、『尊敬している利用者に敬意を持って接している』との言葉が聞けた。理念の、『人格尊重』を実践している事が良く理解出来た。	人間尊重即ち、バリデーシヨンの思想はホームに関係する全ての人に理解されている。去年・今年・来年とスパイラルアップする様に、ホームの目標を掲げる取り組みを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事には積極的に参加し、事業所の行事に地域の方にもご協力いただくなどといった交流が発展し、地域の方の個別相談にのったりと、日常的な交流が増している	管理者が区長に、『いつもやってもらってばかり・・・』と言えば、区長より『無理しないでいい、遣って貰えば良い、その気持ちだけでいい』との言葉。老人会のメンバーがホーム周辺の草刈りと片付けの奉仕をする。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前は地域の方向けに認知症の講習会を開いたこともあり、現在でも運営推進会議やささえあいネットの集まり等で認知症の方への接し方、思い等、伝えられる機会を生かしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	実際に現在の事業所の状況を細かく伝えており、地域の方からいただいた意見に対しては、事業所運営に積極的に取り入れサービス向上につなげている	現職だけでなく、歴代の区長が地域の各方面の代表となって会議に出席する。区長が交代しても、地域との繋がりを継続して行く仕組みが出来ている。会議では積極的な意見が出され、火災訓練は毎月行っている。	知見者(他のグループホームの管理者等)へ、会議への参加を呼び掛けて欲しい。参加しているメンバーにとっても、他のホームでの取り組みや情報は大変参考になると思われる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	相談員の方等に地域との交流の様子や、事業所や利用者さんの状況を細かく伝えたいと、助言があればケアサービスに生かせるよう取り組んでいる	運営推進会議に地域包括支援センター職員の参加があり、介護相談員の受け入れもあって、利用者の状況は行政に伝えられている。役所との協力関係の中で、認知症の方が住みやすい地域作りに努力している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	禁止行為については全職員が十分理解しており、身体拘束は行っていない。玄関は人目につきにくい場所にあるため、ご家族にも了承いただき、付近に職員がいないときのみ施錠している	管理者・職員は身体拘束による弊害を理解し、身体拘束をしないケアを実践している。車に対する危険性もあり、職員の手薄な時間帯や不穏な利用者のいる時に限って施錠する事もある。業務を優先するあまり、スピーチロックにならない様に注意している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員一同が寄り添うケアの重要性を理解している。虐待の意味の無さ、逆効果を職員全員が充分理解しており、虐待などは一切行われていない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前、成年後見制度についての研修に参加し、全職員に対し報告を行ったが、最近では機会がなかったため、機会があれば再度学びたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	機会をとらえた話し合いや、又、文書による説明といった場面も設けるなど、理解のための時間を十分もたせてもらっている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常的に意見や要望があれば、随時話を伺い、関係者と話し合ったり、事業所運営に取り込めそうなことがあれば検討して積極的に反映できるよう努力している	家族アンケート回答者の半数が12項目全てを満足と答えている。コメント欄に、『利用者だけでなく、家族の気持ちも大切に下さり有難い』との言葉があった。利用者だけでなく家族からも全幅の信頼を得ている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	従来、管理者と職員は意見交換できる場はあったが、運営側の法人の本部長との面談も増え、運営状況の報告を受けたり、こちらの意見や提案を言うことが出来る機会が増えた	管理者は、会議やミーティング以外でも日頃より職員の意見や提案を聴く機会を多く設けている。母の介護のために退職を考えていた職員が相談し、『介護休暇』が実現して退職を免れた事例もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営側の法人の本部長との面談も増え、運営状況の報告を受けたり、こちらの意見や提案を言うことが出来る機会が増えた		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社したばかりの職員にいきなり仕事を任せることは無く、必ずベテランの職員が付き、指導を行っている。また、研修にも優先的に参加してもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同じ地区のグループホームが集まる研修に参加する機会があり、情報交換を行い、お互いに良いところを取り入れあうことが出来ている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族の情報も大切にし、体調、精神状況を見逃さないよう細やかな視点にたち、情報を職員全員のものにして、日々の支援へとつなげている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者さんと同じように、ご家族ともしっかりと話し合いを行い、何を望んでいるかを把握し、ケアに生かせるよう努力している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	上記のようにしっかりと話し合いを行いアセスメントをすること、又、本人のその時々様子から、本人の一番必要としているケアを導き出し、サービスの提供を行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者さんが出来ること、出来ないことは常に把握できている。出来ることであれば、一緒に行くことでよい関係を築くことができている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご多忙のあまり、利用者さんに対して協力をいただく機会が少ないご家族にたいしては、ご家族に協力の大切さを伝え、一緒に利用者さんを支えられるような関係へとつなげている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居期間が長くなったり、相互の加齢に伴い、馴染みの人との交流は難しい方もでてきているが、ご家族のお力添えもいただき、まだまだ交流できている方も多い	89歳の隣人が79歳の方の運転で来訪したり、親戚の人が来ている。元教師の利用者は、自分の勤務していた学校に出かけている。年賀状を一緒に書き、電話の取次ぎをして馴染みの関係の継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士のレベルや相性を把握し、孤立したりストレスに感じる事が無いよう、居場所を変えたりスタッフが間に入るといった支援を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者さんが退居されたあとも、ご家族と現在の状況を伝えあったり、事業所に顔を出してくださるといった良好な関係があり、必要があれば相談などの支援も行っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者さんご本人としっかり話をする機会を設け、なにを望んでいるか情報収集を行っている。コミュニケーションが難しい場合は、ご家族と話をして情報を得ている	寄り添うケアの中で『笑顔が出た』、『身体が動いた』ところで眩きが出る。これを逃さない様にキャッチし、家族に話し、申し送り・カルテにメモしている。グループバリデーションを通して個々の『思い』を把握している。	聞き取った眩き～利用者の叶えて欲しい真の思い(馴染みの人・場所・食べ物)を把握し、誕生日プレゼントとして思いを叶える支援を期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や、入居前に利用していた施設や病院などから情報を集め、サービスの提供に生かしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご家族からの話だけでなく、入居された利用者さんのその時々の変化をとらえ、その方のペースをよく観察した現状を把握することに努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスや職員会議でケアプランについて意見交換を行い、わかる方にはご本人へ、そしてご家族にも毎月意見をいただきプラン作成に反映している	3ヶ月毎に利用者担当者が介護計画を見直し、カンファレンスを開いて検討している。家族アンケート『介護計画の説明』の項目では、毎年回答者全員より『大いに満足』の評価を得ている。	前項(23項)で把握した叶えて欲しい思いを叶える介護計画の作成を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を細かくカルテに記載し、ケアの変更点などあれば申し送りノートを活用して、全職員が同じケアができるよう情報を共有している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人一人の状況に合わせて、今までやったことがない事例だからとあきらめないで、全職員で相談し合い、より良いケアが出来るように努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を通じて、地域の民生委員の方や包括支援センターの職員の方等と協力関係を築いて利用者さんやご家族の要望を取り入れた支援を行っている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人のDrが毎週訪問診療を行っているため、細かな連携も取れており、今の利用者さんに合った医療を受けられる環境ができています	全員が協力医をかかりつけ医としている。6月から訪問診療が導入され、医師・家族・ホームが連携して健康管理をしている。家族アンケートでも回答者全員が満足と答え、自由記述のコメントでも『安心』の声がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者さんについて気付いたことや変わったことがあれば看護師に細かく伝えている。また、看護師からは医療の面でのアドバイスをもらいケアに生かしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	サマリーでの情報提供だけでなく、必要があれば電話や直接出向くなどして細やかな情報交換を行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日常的な医療が必要になった場合や、緊急時の延命治療についての話をご家族に行ったり、今のご家族の気持ちをおり込んで、今後の方向性を作り、必要に応じてアドバイスも行っている	家族・利用者話し合い、延命治療をするか否かを明確にしようとしている。重度化した場合や医療的ケアが必要になった場合は、医師・利用者・家族と検討を行い、法人関連施設の最も適した住いへの住み替えを行う体制が整っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	前年度には、事業所内で消防隊員の方を招いて救急救命法の訓練を実施。また、消防署で開催された講習にも参加している結果、事業所内での心配蘇生も実践することにつながっている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月1回、防災の日を設け全職員が災害時の対応が出来るよう訓練を実施している。また、春と秋には消防隊員の方と地域の関係者の方々を招いて合同で避難訓練を実施している	消防署・地域(区長・民生委員他)と合同で年2回避難訓練を行っている。訓練では区長⇒リーダー⇒地域防災担当者と連絡網を機能させ、多い時は10名ほどが集まり、全員が反省会まで参加する協力ぶりである。	ホームと区との協定により、多くの協力者の参加があるので、各々の役割を決め、実際の訓練を行い、真に応援隊の機能が発揮されるように備える事を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格尊重の理念のもと、全職員が利用者さんの尊厳を傷つけないよう細やかな声かけや対応を心がけている	利用者に対して人生の大先輩として敬う気持ちで接し、人格尊重の理念が実践されて自尊心を傷つけない対応を心がけている。トイレ・入浴介助時には、プライバシーに配慮してさりげない支援をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	バリデーションを取り入れた支援をしており、重度化された方は、ご本人の表情から思いや希望を読み取り、軽度の方はその言動から思いを読み取り、全職員が本人中心の支援につなげている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴の順番や時間などある程度のスケジュールはあるが、食事を食べたくない方には食べたくなるまで待つといったその人のペースに合わせた支援を行っている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみを気にする利用者さんにはご家族協力のもと化粧品を用意したり、好みの服をそろえてもらうといった支援を行っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が委託になったため、利用者さんの好みを叶えるのは難しくなったが、味付け面や具材の固さ等、利用者さんの要望は委託業者に伝え改善を図っている 行事の際には、皆で作ることも取り入れた	利用者と共に食事を摂る職員、さりげなく介助をする職員と、賑やかな食事風景である。利用者の力量・希望に合わせ、米とぎ、盛り付け、食器・お盆・テーブル拭き等で協働し、楽しみ・張り合い・自信につなげている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事が食べられない方には、食事とは別に高カロリー栄養剤を摂取してもらうといった方法で栄養バランスには気をつけている。また、水分を好まない方には、固めてさしあげる等の支援をしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨き、うがい等と、その方一人一人の能力に合わせた口腔ケアを行っているが、どうしてもケアできにくい方もおられる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者さんそれぞれの排泄タイミングを記録し、それに合わせた声かけ誘導や、又、本人の気持ちをたいせつにしたパンツやパット等の使用を大切にしよう心がけている	排泄チェック表に基づき、排泄パターンを把握して利用者一人ひとりに合わせた誘導を行い、トイレでの排泄が出来る様に支援している。利用者の仕種・動きで誘導を行い、パッドの量が減った事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維がとれるようおやつに果物をだしたり、水分を補ったり、運動を取り入れたりしている。頑固な便秘の方には、法人Drに相談して利用者さんにあった薬の処方をお願いしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入るメンバーや時間は決まっているものの、入浴を嫌がる方には順番を変えて気分が変わるのを待ったり、湯の温度やかけ方にも気をつけるといったように可能なかぎり本人の意向に沿った支援を行っている	入浴は週2回で時間も概ね決まっているが、極力利用者の希望に沿うよう配慮している。入浴を拒否する利用者には無理強いせず、気長に声かけを行っている。柚子湯・菖蒲湯等、季節感を楽しむ工夫もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自分のペースでゆっくり出来る場所を確保すると共に、疲れた表情をされているときにはこちらから声かけし休んでいただくような支援を行っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者さんごとに服用している薬の効果や副作用の書かれている用紙をファイルしいつでも見れるようにしているが、非常勤職員を交えると全職員が理解しているとは言えない		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	人との交流が好きで責任感がある利用者さんには代表で挨拶をお願いしたり、家事で人の役に立ちたいと思っている方には無理のない範囲で手伝ってもらう等といったその人にあった支援を心がけている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	いつでも好きな時に外出するというのは難しいものの、喫茶店にコーヒーを飲みに行く機会を作ったり、時間の取れたときには散歩に出かけ、地域の人と交流できる時間を作るといったように外出する機会は出来るかぎり設けている	日常的に散歩・買い物・喫茶店・神社・弘法さんに出掛け、重度の人は外気浴をしている。季節を感じる花見(桜・紫陽花等)に出かけ、家族と共に日帰り旅行にも出かけている。地域行事(花見・盆踊り・敬老会・祭り・フェスタ・運動会・避難訓練等)に参加している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者さんが自分でお金を所持し管理することは現状難しいので、事業所で管理し、必要に応じて職員と一緒に使うといった機会を設けている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に連絡したいと言われる利用者さんがいれば必要に応じて電話を取り次ぎ、手紙を書ける方には職員支援のもと、ハガキ等を書いていただきご家族に送っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者さんがわかりやすいよう居室やトイレには張り紙がしてあり混乱がないようにしている。また、花なども飾ってあり季節感を出しているが、それが元で混乱するような方であれば撤去するなどして対応している	一面が窓のリビングから公園が見渡せ、子ども達が遊ぶ姿が見え、廊下は天窓からの彩光が暖かい雰囲気を出し、子犬が放たれて利用者の傍に寄り添っている。一角の畳スペースには床の間、障子があり、水屋が置かれて心地よい空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでの席は利用者さんのレベルや相性を考えて決めている。また、一人になりたい方には居室やフロアにあるソファなどで自由に出来るよう居場所を用意している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前使用していた馴染みの物品や好みの品などあれば、入居時だけでなく、利用者さんの希望があればご家族に相談して用意していただくといった環境作りをしている	居室2部屋の間にトイレが設置されており、利用者の排泄支援には大きな手助けになっている。部屋に合わせた豪華なカーテン、ベルサイユ調の大型机・収納筆筒が設置され、豪華な雰囲気を醸し出している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー設計ではあるが、利用者さんの状態に合わせて手すりを設置したり、床に転倒防止のマットを引いたりといった環境作りを行っている		